

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）  
 「日本化学会発行論文誌の国際競争力強化」  
 （課題番号：18HP1003）

学術団体名：公益社団法人 日本化学会

学術刊行物の名称：Bulletin of the Chemical Society of Japan および Chemistry Letters

事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

## ○1 取組の概要

### ◇取組内容の特徴と目的、意義及び方法

日本化学会が発行するジャーナル2誌は、平成25年度より国際情報発信強化(A)(課題番号251006)の支援を得て、質の向上と国際情報発信強化を促進し、インパクトファクター(IF)の著しい向上などを達成した。本取組みでは、過去5年間の革新的取組を継続的に発展させ、1) 審査・編集・出版体制の強化と国際化、2) グローバルな著者マーケティング活動の展開、3) 効果的な国際情報発信プラットフォームの構築、4) 国際情報発信強化のための四つの新施策により、国際情報発信を一層強化する。

### ◇応募時に設定した取組の目標・評価指標

- ・審査・判定基準のさらなる厳格化：採択率 BCSJ 40%、CL 30%
- ・海外地域プロモーターの登用 ・IF 5 の達成
- ・論文 PDF ダウンロード数 15 万 ・被引用 0 回論文率 20% 以下

## ○2 目標の達成状況

### ◇現在までの目標の達成状況

#### 1) 審査・編集・出版体制の強化と国際化

・海外地域プロモーター(RP)として中国で Hai-Bo Yang 教授（華東師範大）を登用し（図1）、同教授がリーダーの拠点を立ち上げ、中国国内のPR強化、中国有力研究者への Review 執筆依頼を行った。また、北米では Rader Jensen 博士（米国籍）を登用し、海外国際会議のブース展示でのプロモーション、メールや SNS による国際情報発信等を行っている。

- ・2020年の投稿論文に対する採択率（Review系を除く）は、CL 44.1%、BCSJ 58.9%である。

#### 2) グローバルな著者マーケティング活動の展開

・新規 Web 特集テーマを立ち上げ、各テーマで質の高い論文を収録している。Review や Account だけではなく、国内外の著名な研究者の Article も集まっており、ジャーナルの地位向上に寄与している。  
 ・国際情報発信力強化のため IT 担当者を新規登用した（図1）。掲載論文のメール発信数：6,000 件。  
 また、2020年4月にメール配信システムを導入し、効率的に500件の配信を行った。

- ・39件の国際会議等での広告掲載、フライヤー配布やジャーナル賞授与を行った。

#### 3) 効果的な国際情報発信プラットフォームの構築

・Atypen 分析機能による読者動向調査を実施し、論文 PR や新規 Web 特集テーマ開拓等に活用した。

#### 4) 国際情報発信強化のための新たな施策

・完全電子ジャーナル化により情報発信を一本化し、精度の高いユーザー動向分析を行った。投稿時の ORCID ID 付与を実施した。Twitter のフォロワーは約 950 人となっており、情報発信ツールとして有力なものとなっている。

#### 5) IF、論文 PDF ダウンロード数、被引用 0 回論文率

2015～2019年の IF 値は、BCSJ 1.372→4.488（図2）、CL 1.550 → 1.361 の推移となった。来年発表になる BCSJ の IF の 10/10 時点での計算値は 4.106 で昨年同時期での数値を 0.7 上回って推移しており、目標の 5 を達成できる見込みである。論文 PDF ダウンロード数は中間時の目標である 15 万をほぼ達成する 13 万となっている（図3）。2018年・2019年掲載論文のうち被引用 0 回の割合は、CL 34.3%、BCSJ 18.4%となっている。

### ◇今後の計画

本活動の評価目標を達成すべく、上記取組みを継続・深化させる。特に CL は Review 掲載数の増加、情報発信の強化を進め、目標達成を目指す。

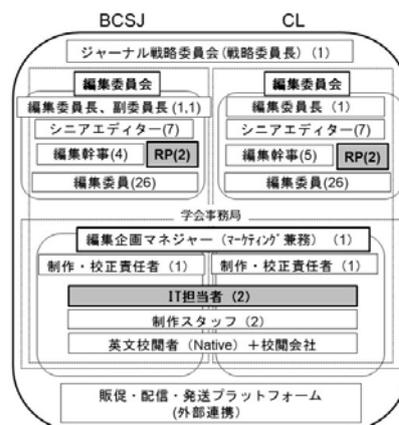


図1. 編集・出版体制の強化



図2. BCSJのIF推移



図3. 論文 PDF ダウンロード(DL)数推移